

# 『官兵衛神社御寄進のお願い』

平素より廣峯神社へ格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今般新たに、福岡県福岡市の大長寺に安置されておりました黒田職隆公ゆかりの大変貴重な珪化木が、官兵衛神社に贈与されることになり、大変名誉なことと喜んでおります。

この珪化木は、数千年の歳月をかけて化石化した古木の根であり、235年前の江戸時代、天明3年（1783）に播磨国飾東郡妻鹿村（現姫路市飾磨区妻鹿）で発見された職隆公の墓所より5つが出土したものの一つです。翌4年には、当時の福岡藩主であった黒田齊隆公の藩命によって、墓所には立派な御廟所を造営、この珪化木だけが姫路から職隆公の御位牌を祀る大長寺に運ばれ、二百回忌法要が執り行われました。

戦国乱世を姫路で生き抜かれ、黒田家再興の礎を築かれた職隆公。その墓所に埋葬された珪化木は決して朽ちることのないことから、黒田家の未来永劫の繁栄を願われると共に、職隆公に末永く見守っていただきたいと願って埋められたものと考えられます。

心光山・大長寺に祀られる5つの珪化木。心光山・大長寺は黒田長政公が福岡藩主になられたとき、黒田家の菩提寺となりました。



珪化木は、地中に埋もれた樹木が数百万年から数千万年の歳月を掛けて化石化したもので、非常に硬い素材となっています。決断力を高める、安心、祖先から引き継がれた知識や才能を引き出すなどのヒーリング効果があると言われています。

珪化木に掛けられた願いによって、福岡藩祖となられた官兵衛公以降、現在に至るまで黒田家は代々名家としてその名を刻まれ、また、福岡藩（福岡市）も大いに栄えてきました。

その黒田家を支え続けた珪化木が、234年ぶりに故郷姫路へ里帰りをするのです。

これまで、官兵衛神社建立へ向けて一意専心して参りましたが、黒田家ゆかりの貴重な珪化木を御神体としてお祀りするに当たり、それに相応しい立派な神殿、幣殿、拝殿にすべきと言う強い思いに至りました。さらに、姫路市をはじめ、播磨の発展と平穏、皆様の子々孫々までの繁栄を願うのに相応しい神社にすべく、これまで以上に誠意努力を重ねて参る所存でございます。何卒、皆様からの篤い篤いご支援・ご協力を賜りますよう、心より切にお願い申し上げます。

また、皆様の周りの方にもぜひお声掛け、ご紹介をお願い申し上げます。ご紹介いただきました方の所へは、早速馳せ参りまして詳しい内容をご説明させていただきます。